

再 評 価 調 査 書

I 事業概要					
事業名	農業農村整備事業（経営体育成基盤整備事業）				
地区名	安城荒井地区				
事業箇所	安城市東端町、根崎町、城ヶ入町				
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県安城市の南西部に位置し、二級河川半場川<small>はんばかわ</small>の両岸に広がる水田地帯であり、水稻を中心に、キャベツやブロッコリー等の作付が展開されている。</p> <p>本地区の農地は、1964～1971年に団体営ほ場整備事業にて一次整備が行われているものの、大部分の農地が小区画であり、用排水施設は整備後50年以上が経過していることから老朽化が進み、営農に多大な影響をきたしている。さらに、水はけの悪い農地の中には、作付けを行うことができない区画があり、範囲も年々拡大していることから、早急の対応が望まれている。</p> <p>このため、農地の大区画化、用水路のパイプライン化、排水路の改修等を行い、営農条件を向上することで担い手への農地集積を促進し、農業競争力の強化を図ることを目的とする本事業を、2020年度から実施しており、2029年度に完了する計画である。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>営農条件の改善、担い手への農地の集積・集約及び農業経営の安定を図る。</p> <p>農地利用集積率の増加</p> <p>事業開始時：81.9% ⇒ 目標：88.2%</p> <p>事業開始時における担い手農地利用集積率が55%以上90%未満である場合、5%ポイント以上増加（農業競争力強化農地整備事業実施要綱）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時(2019)	再評価時(2025)	変動要因の分析	
	事業期間	2020～2027	2020～2029		
	事業費（億円）	24.1	28.9		
	経費内訳	工事費	22.1	26.7	労務資材費の増(2019年単価→2025年単価)
		用補費	0.4	0.4	
その他		1.6	1.8	労務費の増(2019年単価→2025年単価) 支線水路の測量試験費の増	
事業内容	区画整理 80.3ha 整地 A=60.5ha 用水路 L=3.1km 排水路 L=0.5km 用水路 L=17.1km 排水路 L=6.5km	区画整理 80.3ha 整地 A=60.5ha 用水路 L=3.1km 排水路 L=0.5km 用水路 L=17.1km 排水路 L=6.5km			
II 評価					
① 事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>本地区では、担い手農家11人が約8割の農地を耕作している。一方で、大部分の水田は20aから30a未満の小区画であり、用水路及び排水路は設置から40年以上が経過し老朽化に伴う破損により漏水が頻発するなど維持管理に多大な労力を要していることから、農地利用集積率は頭打ちとなっている。</p> <p>担い手農家への農地利用集積を進めるため、狭小な農地の大区画化や老朽化した用水路及び排水路の改修等によって、営農条件を改善する必要がある。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>本地区の農業生産基盤は依然として改善されておらず、地域農業を支える担い手に農地集積を進</p>			

		めるために事業を進める必要がある。 【変動要因の分析】 未着手の用水路、排水路、及び小区画農地が効率的な営農の支障となっており、事業の必要性は依然として高い。																																																																																																																																																																																	
	判定	<p>B</p> <p>A：事業着手時に比べ必要性が増大している。 B：事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C：事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】 本地区の農業生産基盤は依然として改善されておらず、地域農業を支える担い手に農地集積を進める必要があるため、事業の必要性は事前評価時と同等である。</p>																																																																																																																																																																																	
② 事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> <th>2027</th> <th>2028</th> <th>2029</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">工種 区分</td> <td>調査設計</td> <td colspan="2">←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>・区画整地工</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>・用水路工</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・排水路工</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費 (億円)</td> <td>当初計画</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">15.1</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">9.0</td> <td></td> <td></td> <td>24.1</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">7.9</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">7.9</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">21.0</td> <td></td> <td></td> <td>28.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗率</th> </tr> <tr> <th>計画 【①】</th> <th>実績 【②】</th> <th>達成率 【②÷①】</th> <th>計画 【③】</th> <th>進捗率 【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区画整理 (ha)</td> <td>80.3</td> <td>2.8</td> <td>3%</td> <td>80.3</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>用水路工 (km)</td> <td>17.1</td> <td>2.8</td> <td>16%</td> <td>17.1</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>排水路工 (km)</td> <td>6.5</td> <td>0.4</td> <td>6%</td> <td>6.5</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>24.1</td> <td>7.9</td> <td>33%</td> <td>28.9</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td> 工事費(億円)</td> <td>22.1</td> <td>7.6</td> <td>34%</td> <td>26.7</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td> 補償費(億円)</td> <td>0.4</td> <td>0.0</td> <td>0%</td> <td>0.4</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> その他(億円)</td> <td>1.6</td> <td>0.3</td> <td>19%</td> <td>1.8</td> <td>17%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】 ・区画整理 A=2.8ha、用水路 L=2.8km、排水路 L=0.4km</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】 該当なし。</p>			2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	計	工種 区分	調査設計	←→											用地補償				←→								工事		←									→	・区画整地工		←→			←						→	・用水路工		←									→		・排水路工		←→			←						→	事業費 (億円)	当初計画			15.1				9.0				24.1	実績			7.9								7.9	今回計画			7.9				21.0				28.9		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率		計画 【①】	実績 【②】	達成率 【②÷①】	計画 【③】	進捗率 【②÷③】	区画整理 (ha)	80.3	2.8	3%	80.3	3%	用水路工 (km)	17.1	2.8	16%	17.1	16%	排水路工 (km)	6.5	0.4	6%	6.5	6%	事業費(億円)	24.1	7.9	33%	28.9	27%	工事費(億円)	22.1	7.6	34%	26.7	28%	補償費(億円)	0.4	0.0	0%	0.4	0%	その他(億円)	1.6	0.3	19%	1.8	17%
			2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	計																																																																																																																																																																						
工種 区分	調査設計	←→																																																																																																																																																																																	
	用地補償				←→																																																																																																																																																																														
	工事		←									→																																																																																																																																																																							
	・区画整地工		←→			←						→																																																																																																																																																																							
	・用水路工		←									→																																																																																																																																																																							
	・排水路工		←→			←						→																																																																																																																																																																							
事業費 (億円)	当初計画			15.1				9.0				24.1																																																																																																																																																																							
	実績			7.9								7.9																																																																																																																																																																							
	今回計画			7.9				21.0				28.9																																																																																																																																																																							
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率																																																																																																																																																																															
	計画 【①】	実績 【②】	達成率 【②÷①】	計画 【③】	進捗率 【②÷③】																																																																																																																																																																														
区画整理 (ha)	80.3	2.8	3%	80.3	3%																																																																																																																																																																														
用水路工 (km)	17.1	2.8	16%	17.1	16%																																																																																																																																																																														
排水路工 (km)	6.5	0.4	6%	6.5	6%																																																																																																																																																																														
事業費(億円)	24.1	7.9	33%	28.9	27%																																																																																																																																																																														
工事費(億円)	22.1	7.6	34%	26.7	28%																																																																																																																																																																														
補償費(億円)	0.4	0.0	0%	0.4	0%																																																																																																																																																																														
その他(億円)	1.6	0.3	19%	1.8	17%																																																																																																																																																																														
	2) 未着手又は長期化の理由	地区界に近接する河川の引堤工事（県）及び道路の拡幅工事（市）との工事計画及び工程調整の結果、工期を2年延長することとした。																																																																																																																																																																																	
② 事業の進捗状況及び見込み	3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 なし。</p> <p>【今後の見込み】 今後、予算確保に努めながら事業の進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。</p>																																																																																																																																																																																	
	判定	<p>B</p> <p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。 B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける） ○これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込</p>																																																																																																																																																																																	

		<p>まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																																							
	【理由】	今後、多少の阻害要因が見込まれるが、ほぼ計画どおりの完成が見込まれるため。																																																																							
③ 事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化	【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析の算定基礎となった要因変化の有無】	事前評価時からの農地面積の変化はない。																																																																						
		【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】																																																																							
			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>事前評価時 (基準年:2019)</th> <th>再評価時 (基準年:2025)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>当該事業による費用</td> <td>17.0</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関連施設の整備費等 注)</td> <td>4.1</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (C)</td> <td>21.1</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">効果 (億円)</td> <td>作物生産効果</td> <td>18.7</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>品質向上効果</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>営農経費節減効果</td> <td>13.5</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費節減効果</td> <td>△0.3</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>営農に係る走行経費節減効果</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耕作放棄防止効果</td> <td>0.0</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>非農用地等創設効果</td> <td>0.1</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国産農産物安定供給効果</td> <td>5.2</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (B)</td> <td>38.2</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考)</td> <td>水稲作付面積 (ha)</td> <td>88.3</td> <td>88.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>算定要因</td> <td>普通畑作付面積</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>1.8</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分		事前評価時 (基準年:2019)	再評価時 (基準年:2025)	備考	費用 (億円)	当該事業による費用	17.0	-		関連施設の整備費等 注)	4.1	-		合計 (C)	21.1	-		効果 (億円)	作物生産効果	18.7	-		品質向上効果	0.5	-		営農経費節減効果	13.5	-		維持管理費節減効果	△0.3	-		営農に係る走行経費節減効果	0.5	-		耕作放棄防止効果	0.0	-		非農用地等創設効果	0.1	-		国産農産物安定供給効果	5.2	-		合計 (B)	38.2	-		(参考)	水稲作付面積 (ha)	88.3	88.3		算定要因	普通畑作付面積	0.8	0.8		費用対効果分析結果 (B/C)		1.8	-	
		区 分		事前評価時 (基準年:2019)	再評価時 (基準年:2025)	備考																																																																			
		費用 (億円)	当該事業による費用	17.0	-																																																																				
			関連施設の整備費等 注)	4.1	-																																																																				
			合計 (C)	21.1	-																																																																				
		効果 (億円)	作物生産効果	18.7	-																																																																				
			品質向上効果	0.5	-																																																																				
			営農経費節減効果	13.5	-																																																																				
			維持管理費節減効果	△0.3	-																																																																				
			営農に係る走行経費節減効果	0.5	-																																																																				
			耕作放棄防止効果	0.0	-																																																																				
			非農用地等創設効果	0.1	-																																																																				
国産農産物安定供給効果	5.2		-																																																																						
合計 (B)	38.2		-																																																																						
(参考)	水稲作付面積 (ha)		88.3	88.3																																																																					
算定要因	普通畑作付面積	0.8	0.8																																																																						
費用対効果分析結果 (B/C)		1.8	-																																																																						
※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したもの。																																																																									
※評価期間:50年(当該事業の工事期間10年+40年)																																																																									
※費用対効果分析については、愛知県公共事業評価実施要領細則により、原則として、事前評価時と比べ、その要因が3割を超えて変化している場合、または費用対効果分析結果が1未満になる恐れがある場合に実施するとされており、今回の評価では算定しない。																																																																									
注) その他費用の内訳																																																																									
①当該施設 再整備費+事業着工時点の資産価格-評価期間終了時点の資産価格																																																																									
②当該施設と一体的に効用を発揮する関連施設(用水上位施設) 新規整備費+再整備費+事業着工時点の資産価格-評価期間終了時点の資産価格																																																																									
【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】																																																																									
「新たな土地改良の効果算定マニュアル」(2024年8月 農林水産省農村振興局企画部土地改良企画課・事業計画課監修)に基づき算定。																																																																									
【変動要因の分析】																																																																									
費用対効果分析の算定基礎となった要因に大きな変動はない。																																																																									

	2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【事前評価時の状況】 該当なし。</p> <p>【再評価時の状況】 事業評価時には計上しなかったが当初から発現が見込まれる効果として、生産性の高い農地を担い手に集積し、高収益な営農が将来にわたって継続されることにより、食料の安定供給が確保されるとともに、農地の保全が図られ、地域経済及び地域社会の持続が期待できる。</p> <p>【変動要因の分析】 該当なし。</p>
	判定	<p>A</p> <p>○A：前回評価時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：前回評価時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：前回評価時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】 事前評価時からの大きな効果の変化はないため。</p>
III 対応方針（案）		
継続	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>	
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 —</p> <p>【主な評価内容】 ・営農状況及び担い手農家への農地利用集積率の確認</p>		
V 事業評価監視委員会の意見		
<p>安城荒井地区の対応方針（案）[事業継続] を了承する。</p>		
VI 対応方針		
<p>事業継続</p>		